

# 啄木のふるさと『もりおかの短歌』

## 第1回 春の部 優秀賞発表

### 春の部優秀賞十首

「啄木のふるさと」『もりおかの短歌』は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に実施している事業です。

年間を四つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。

第1回目の春の部は、平成21年3月から5月の3ヶ月間募集、観光客や市民の方々から多くの短歌が投稿され、この度優秀賞10首が選定されました。

投稿箱は、当所や盛岡市役所、啄木関連の観光施設、市内ホテルなどに設置しており、現在は第2回夏の部を募集しておりますので、啄木になつた気分で行書きの短歌に一度挑戦してみたいかがですか。



市内ホテル等に設置されている投稿ボックス

春の宵  
裸電球ゆらめいて  
大慈清水の今だ冷たき

宮城県仙台市 阿部 堅市

高松の池を飛び立つ  
白鳥の群れの  
写真が朝刊飾る

岩手県盛岡市 鈴木 充

自転車でふらりと立寄り  
小つなぎの命のノートに  
力もらえり

愛知県清須市 宮内 孝典

「石をもて追はるることく…」  
リストラの我が身重ねて  
記念館観る

茨城県かすみがうら市 石井 明

根雪消え  
黄砂と埃が舞う街の  
イサゴダの店で制服を買う

岩手県花巻市 葛巻美音子

車椅子押して  
石割桜観る

白寿の父の目線に合わせ

東京都江東区 藤村 清彦

盛岡で出会った私の人生しるべ  
石割桜の  
意志ある生き様

東京都目黒区 吉川 久代

城址の  
立夏に咲きしフデリンドウ  
烏帽子の岩に負けぬりしさ

東京都三鷹市 河津 優司

啄木の如  
城跡に寝轉びて  
空に描きし我が志

岩手県盛岡市 高西 良介

きららかにしだれかつらは風にゆれて  
民子の歌碑を  
春ぐごとく立つ

宮城県石巻市 大和 昭彦

平成二十一年六月選 春の部  
投稿数 百七十二首

選者 松田 久恵 氏

# 啄木のふるさと、『もりおかの旅』

## 第2回 春の部 優秀賞発表

### 春の部優秀賞十首

『啄木のふるさと』『もりおかの旅』は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に実施している事業です。

年間を4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。

第2回目となった春の部は、今年3月から5月までの3カ月間募集し、観光客や市民の方々から多くの短歌が投稿され、この度優秀賞10首が選定されました。

投稿箱は、当所や盛岡市役所、啄木関連の観光施設、市内ホテルなどに設置しており、現在は第3回夏の部を募集しておりますので、啄木になった気分で行書きの短歌に一度挑戦してみたいかがですか。

啄木の人の柄に触るる  
心地して姫神の郷の  
足湯に憩ふ

岩手県八幡平市 及川 稜

洪民のその名に心はやるなり

今歌に立ち

彼の苦思う

大阪府大阪市 筒井 由美

石を割る

見事な桜に励まされ

宇宙へのゆめきつとはたきん

大阪府豊中市 上原 満

新緑の御所湖畔に  
頬白の「一筆啓上」  
さえずりを聞く

岩手県盛岡市 鈴木 充

吾もまた

十五の心になりたくて

不來方城址に寝ころんでみる

神奈川県横浜市 牛島 芳一

小岩井の一本桜咲きにけり

なぜか孤高の

啄木に似る

神奈川県横浜市 牛島 芳一

盛岡に住みたる孫は

啄木を二十首そらんじ

二年生になる

宮城県富谷町 根本 由紀子

チヤグチヤグと鈴の音かおるみちのく路  
馬上の少女に  
投げキッスする

青森県八戸市 田村 三之助

言の葉のやさしきひびき

停車場の啄木思う

盛岡の旅

東京都新宿区 松下 洋子

時間なく

あせる気持ちをやじやめんの

辛さがピシッとひきしめるなり

北海道留萌市 高田 僚哉

平成二十二年六月選 春の部

投稿数 二百八十首

選者 松田 久恵氏

春の部優秀賞十首

えんがん さち き  
沿岸に幸よ来たれど

ねが  
願ひこめ

みね ゆきがたわしと  
峰の雪形驚飛び立ちぬ

岩手県滝沢村 小田 佐枝子

ひさいち む  
被災地へ向かう車列に

てあ  
手を合わす

ぶじ  
無事であれよと故郷を想う

長野県下諏訪町 真田 和雄

み  
見あぐれば岩手山上

ひこうきぐも  
ふたすじの飛行機雲の

まじ  
交わりてをり

新潟県魚沼市 坂西 直弘

とうほくどう  
東北道

おそ はる  
北上すれば遅い春

いっほんざくら やま ざんせつ  
一本桜と山の残雪

岩手県北上市 中島 将博

き  
いつ来ても

なんぶふじ  
神々しきは南部富士

べいじゆ ちら まんぞく え  
米寿の父も満足を笑み

青森県三次市 熊谷 正

ことし こざかたじょう  
今年また不来方城の

はりばた どて  
岨端の土手に

ふくじゆそうき  
ひっそり福寿草咲く

岩手県盛岡市 鈴木 充

きり はな  
桐の花

しるし いだ いわてだい  
微と抱く岩手大

しよくぶえん くさ かこひ  
植物園の草の香恋し

東京都新宿区 佐藤 慶子

もりおか  
盛岡の

ゆきふか みちある  
雪深き道歩いては

せんじん し こころう  
先人を知り功勞を知る

宮城県栗原市 豊田 みなみ

もり まち  
杜の街

いし なが  
石も流れも肅々と

かげ こ ふゆ むかえる  
影を濃くして冬を迎える

神奈川県横浜市 森木 康一

あさからす  
朝鳥

ひとこえ  
カーカーおはよう一声に

ひめかみかた ひ はし だ  
姫神肩の陽へ走り出す

岩手県盛岡市 坂本 由美子

平成二十三年六月選 春の部

投稿数 六百八首

選者 松田 久恵氏

春の部優秀賞十首

クマ注意の看板立てる川原に  
ちゆうい かんばんた かわはら

摘り残されし  
と のこ

路のたう数多  
ふき どうあまた

盛岡市 小野泉

もりおかに

名のみとはいえ春を告げ  
な はる つげ

村木町のよ市始まる  
むらぎもくちよう いちはじ

盛岡市 鈴木充

ふるさとに

りんごの花はほころびて  
はな

芳しその香今日「節子の忌」  
かくわ かきよう せつこ き

東京都新宿区 佐藤慶子

今はない  
いま

城跡下の武徳殿  
しろあとした ぶとくてん

跡地歩めば青春の風  
あとちあゆ せいしゆん かぜ

釜石市 谷藤稔

もりおか

「盛岡さよくおでんした」と迎えらる  
たましい むか

魂に沁みる  
たましい し

さんざの響  
ひびき

東京都江戸川区 佐藤春夫

もりおかに集う  
つど

みちのく六魂祭  
ろっこんさい

柗の花降りパレード進む  
とら はなふ すす

東京都江東区 藤村清彦

オーオーと

白き鳥等の声を背に  
しろ とりら こえ せ

二度泣き橋越えさらば不來方  
にどな ばしこ こずかた

埼玉県越谷市 倉部りえ

山頂さんちやうの驚わしの形かたちが崩くずれきて

我が家わがやの桜さくら

いま咲さかんとす

盛岡市 中島 久光

北上川きたかみがわに

めだか探さがしの川遊かわあそび

啄木たくぼく研究けんきゆう散歩さんぽで学まなぶ

盛岡市 坂本 由美子

春はるなれば

雲くもの襟えりま巻まき着きこなして

花形はながた役者やくしゃの岩手山塊いわてさんかい

埼玉県深谷市 栗林 孝安

平成二十四年六月選 春の部

投稿数 六百六十九首

選者 松田 久恵氏

春の部優秀賞十首

ねころろ　なが  
寝転びて流れる雲に  
おも　よ　しじん　こと  
想ひ寄せ詩人の如く  
こと　はつち  
言の葉紡ぐ

盛岡市 河野 康夫

「おばんです」  
そぼく  
素朴なひびきのあいさつに  
くちもと  
口元ゆるむこは盛岡  
もりおか

盛岡市 丹波 ともこ

はなみ  
花見とて  
かず　めいしよ  
数ある名所　めぐるとも  
はな　いしやりざ　くら  
いとしき花は　石割桜

盛岡市 村井 洋美

が　く　しら  
やはらかな雅楽の調べ  
き　こと　もりおかべん  
聞く如く盛岡弁を  
みみ　こと  
耳に留めぬ

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

せんしゅん  
浅春の  
きたかみがわ  
北上川の辺にて  
ほどり  
心の澱をひとつ棄て去る  
お　り　す　さ  
お　り　す　さ

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

やま　こ  
病い越へこの地に踏みし  
わ　からだ　さくら  
我が身体　桜のごとし  
あわ　いろ  
淡く色づく

宮城県栗原市 千葉 洋子

じやじや　めん  
じやじや麺の  
しにせ　まえ　すわ  
老舗の前に座りいる  
ましろ　ねこ　バイ　なづ  
真白な猫に白と名付ける

雫石町 小地沢 和志

あのなはあん 不來方風を  
あびたなら 眠むくなつたり  
緩くなつたり

宮古市 木村 徹

啄木の

短歌に惹かれし少女の日  
八十路近きも若き日を恋ふ

群馬県富岡市 横田 久子

子も自立

苦勞をかけた妻連れて  
笑顔湯さだすもりおかの旅

米沢市 松谷 忠和

〔掛針〕 旅先で短歌を詠む心のゆとりを持ち、更に応募するところまでもつていくのは、大変なエネルギーが要ると思います。旅行者に限りませんが、応募数から見て、短歌を好きの人が沢山いらっしゃるかと今かなり喜ばしい限りです。

平成二十五年六月選 春の部

投稿数 百二十七首

選者 松田 久恵 氏

春の部優秀賞十首

わんこそば

一杯食べたらいはいじゃんじゃん  
お腹がいっぱい もう一杯

福島県 福島市 山谷 沙希

意外にも

小さきオニの手形かな  
岩手の由来 はじめてぞ知る

群馬県 伊勢崎市 大山 美子

もりおかは

朝取り野菜を携えて  
友住みおれば 訪ねゆく街

葛巻町 鳥居 京子

ゆるりと

時間過ぎ行く公園に 座して  
南部富士を見てをり

埼玉県 杉戸町 小野寺 史子

四圍をべて

緑豊けき古里を  
恋ふて 青息 吐息なる日々

盛岡市 鈴木 操

うぐいすの

声する方を 振り向けば  
岩手山背に 舞う鯉のぼり

盛岡市 西川 政勝

もりおかの

公会堂の 枹の木の  
若葉の緑 今日ハメーデー

盛岡市 鈴木 充

桜咲く

十六羅漢公園に

花見のごとし 羅漢の円座

盛岡市 小笠原 敏夫

五月晴れ

雪の回廊 抜き出れば

岩手山背に 白樺ばやし

紫波町 内村 かほる

ふきのとう

今年もやつと 芽を出した

白銀世界 終わったしるし

東京都 中野区 今井 やいろ

平成二十六年 六月選 春の部

投稿数 百三十六首

選者 松田 久恵氏

春の部 優秀賞十首

季節ときにより 哀しくも見ゆかな  
もりおか

盛岡のもりおか  
ござ九の裏の 岸辺の柳きしべ やなぎ

盛岡市 赤坂 昌信

夕暮れのゆうぐれ  
いわてかたふじ  
岩手片富士 見上ぐればみあ  
いちじん かぜ  
一陣の風 雲湧き起るくもわきおこる

神奈川県横浜市 嘉嶋 宏子

うららかに  
ひのと  
日戸の里に咲き誇るひばほこる

オオヤマザクラ森の奥までもり おく  
盛岡市 小林 貴史

雪のこる岩手山のぞむ上田町ゆき いわてさん うえたまち  
こ  
子は迎えたりむか  
にどめ こがつ  
二度目の五月

大阪府大阪市 佐藤 たかよ

啄木の歌に惹かれし少年がたくぼく うた ひかれ しょうねん  
おいてたず  
老いて尋ぬるまぢ  
もりおかの町

長崎県大村市 鈴木 言義

郭公の心地好き声聴きながらかつこう こちよきこえき  
あい  
愛を語りぬあい  
にしよこ ほどり  
御所湖の畔

青森県青森市 鈴木 操

ふるいもの　むかしながらの　ふるいいえ  
いまもだいに  
つかわれている

岡山県岡山市　高田　悠衣

ゆきがた　わし　とびた  
雪形の鷲が飛び立たむとする朝

しょうねん  
わが少年は

ちゅうがくせい  
中学生になる

宮城県黒川郡富谷町　根本　由紀子

もりおかに

あさつきで　はる  
浅葱出れば春は来ぬ

はは　ことば　すみそあえ  
母の言葉に酔味嗜和えする

盛岡市　堀米　公子

もりおか  
盛岡の  
でんでんむしのバスやさし  
たくぼく　けんじ　いなぞうしの  
啄木、賢治、稲造偲ぶ

神奈川県小田原市　渡辺　豊子

【講評】このたびも多くの方々にご応募いただき、ありがとうございました。  
お一人お一人の目と心で捉えた盛岡の春は、実にさまざまな発見と感動があり、温かみのある表現で詠われていることを嬉しく思いました。

平成二十七年　六月選

投稿数　百三十六首

選者　松田　久恵氏

『もりおかの短歌』

春の部 優秀賞十首

啄木たくぼくがこころ吸すわれし青空あおぞらを

探さがしてのぼる

城しろあとの坂さか

滝沢市 澤内 イツ

遅おくれ雛ひな

古ふるき香かりを漂ただよわせ

今いま観みる人ひとを過か去こ世せに誘さそう

盛岡市 赤坂 昌信

事ことを成なす力ちからは日ひ々の勞いたつきと

石割いしわり桜さくら

吾われに語かたりし

神奈川県横浜市 牛島 芳一

澎湃ほうはいと偉いじん人生じんうみにし

もりおかに

山やまは巖げんとして人ひとを待まつかも

宮城県仙台市 渡邊 拓

狢こま犬いぬの背せなに花はな散ちる八幡はちまんに

響ひびく筆ひちりき策

舞まい姫ひめ二人

青森県青森市 佐東亜阿介

啄木たくぼくの後こう輩はいらしき少しょう年ねんら

拭ふき清きよめいる

古ふるき学がくび舎や

神奈川県小田原市 楓川あけみ

盛岡もりおかの松園まつぞの町ちやうに辛夷こぶし咲さき

北国きたぐにの春はる

つい口遊くちずきむ

盛岡市 中島 久光

おも  
思ひみし盛岡の街今晴れて  
もちおか まちいまは

あす  
明日は去りゆく  
さ

きみ  
君のふるさと

神奈川県横浜市 戸田 紀子

こずかた  
不来方のおほりの縁に青めける  
ふち あお

やなぎあお  
柳仰ぎて  
たくほくおも

啄木想う

盛岡市 餘目 忠吉

ふりむけば

こずかたばし  
不来方橋のたもとから  
しる

いわたさんみ  
まだ白き身の岩手山見ゆ

秋田県大仙市 藤田 直樹

春の部へジュニア部門へ

優秀賞二首

いしがき  
石垣とすだれ桜の美しさ  
はるき よろこ

春来た喜び  
しまい かた

姉妹で語る

盛岡市 屋宮 桃

き いえ ぶかし  
木の家に昔のものがつまつてて  
れきし

歴史あふれる

もりおかの町  
まち

山形県山形市 荒井 凛花

【講評】雪と寒さから解放された盛岡の春は、生きとし生けるものの息吹に満ちています。ここに暮らしながら気付かずいた様々な春を、皆様の短歌から知ることができました。たくさんの方の良い作品をお寄せくださり嬉しく思います。

平成二十八年 六月選

投稿数 百二十六首

選者 松田 久恵氏

『もりおかの短歌』春の部

一般部門 優秀賞十首

啄木の

歌の木札が家々に

掛かりて長閑に暮るる浜民

青森県八戸市 木立 徹

三日後の

チャグチャグ馬コのお祭の

幟はためく不來方城址

京都府長岡京市 吉田 正美

喜雲寺の庭に

鶯鳴く声は

百年むかし啄木も聞く

盛岡市 小林 貴史

啄木へ憧れついに

伴侶をば

岩手の人と決めたる我は

静岡県静岡市 篠原 三郎

さ藤を摘みつつ想う啄木は

この樂しみを

知るや知らずや

岩手郡雫石町 江面 綾子

不來方の

石垣そばの山菜萁の

花こそ春を思わしむなり

盛岡市 赤坂 昌信

まだ明けぬ残雪の道

踏みしめて

神子田朝市人のにぎわい

盛岡市 金澤 正幸

半世紀の桜散るなり

不來方城

櫓を担ぎて登りし坂よ

東京都江東区 藤村 清彦

岩手山の大きいなる姿に

立ちつくす

息子と二人 初めての旅

兵庫県川西市 阪本 美穂

歌集手に啄木追って盛岡へ

一人旅した

十六の春

東京都大田区 村田まどか

ジュニア部門 優秀賞三首

父の日に父と二人で親子旅

憧れていた

もりおかの町

岐阜県美濃加茂市 松原 若菜

通学路

葉桜連なる並木道

ここを通るのもあと十カ月

岐阜県美濃加茂市 今井 愛彩

啄木と同じ空気を吸いたくて

歌詠みながら

目指す盛岡

岐阜県美濃加茂市 藤吉 峻希

【講評】

一般部門

まだ寒い残雪の街、やがてサンシュユが咲きサクラが咲き、チャグチャグ馬コの近づく頃までの歌がたくさん寄せられました。どの歌にも作者の存在が感じられて、惜しみながら迷いながら選すすめました。

ジュニア部門

今年 は 国語の授業で取り組んで下さった学校もあり、フレッシュな歌に出会えたことを何より嬉しく思います。短歌が子供たちに身近な表現方法として浸透しますように、と願いながら選に当たりました。

平成二十九年 六月選

投稿数 三百十五首

選者 松田 久恵 氏

『もりおかの短歌』春の部

一般部門 優秀賞十首

枝垂れ咲く

しだ さ

花よりもなお香りたつ

はな かお

君つれあゆむ米内の水辺

きみ よない みずべ

盛岡市 赤坂 昌信

教へたる啄木カルタを

おし たくぼく

声高く孫らはとりぬ

こゑたか まご

十歳の子も

盛岡市 石川 修子

桜散り若葉に移る

さくらち わかば うつ

不來方のお城で思う

こずかた しろ おも

わが来し方を

埼玉県川越市 内田 定一

啄木の歌口ずさみはるばると

たくぼく うたくち

娘と初めての

こ はじ

岩手山見る

大阪府門真市 川上 なみ子

酒蔵の向かひにありし祖母の家

さかぐら む そぼ いへ

たづね鉦屋町に

はる みづわ

春の水湧く

青森県八戸市 木立 徹

盛岡に

もりおか

十九の春に来てからは

じゅうく はる き

石割桜咲く頃嬉し

盛岡市 小林 貴史

啄木の十五の心

たくぼく じゅうご こころ

知りたくて

こずかた き そら あお

不來方に来て空を仰げり

岡山県岡山市 才本 有香

ふるさとを

たびた ころら がっしょう

旅立つ子等の合唱に

ひめかみさん りょうせん

姫神山の稜線やさし

秋田県大仙市 鈴木

仁

わか ひ つま

若き日に妻とあるいた

しろ

城あとは

みどり

緑の日ざしいまも変わらず

岩手県花巻市 藤原 道正

もりおか

盛岡に

ひとりく

一人暮らせる孫娘のみて

がんば すがた

頑張る姿に日日励まされゐる

千葉県四街道市 松浦 恵美子

ジュニア部門 優秀賞三首

該当なし

【講評】

多くの方々から心のこもった作品を応募していただき大変嬉しく思います。啄木のふるさと『もりおかの短歌』にふさわしい歌ばかりでした。あらためて、短歌という詩型の素晴らしさについて考えさせられました。

平成三十年 六月選

投稿数 百二十四首

選者 山本 豊氏